

心暖まるお手紙

入院患者さんのご家族様より心暖まるお手紙を頂きましたので、皆様にご紹介致します。

7月も下旬になりました。暑くなってまいりましたが、お変わりございませんか。
6月28日に退院して、早いもので1ヶ月が過ぎようとしています。

去年の9月30日に、新王子病院に転院してから沢山の山谷がありました。もう一度家での生活に戻れるとは、思ってもみませんでした。

先生方を初め、看護師の方々、リハビリの方々、栄養部の方々、ソーシャルワーカーの方々、萩原歯科の方々、その総力が合わさってここまでにして頂いたのだと、言葉に尽くせない感謝の気持ちで居ります。

何より皆様に本当によくして頂き、いい入院生活を過ごさせて頂いたことを、幸せに感じています。本当にお世話になり、有難うございました。

6月に入ってからは、父の来し方を聞いて頂き、その時間は、父にとって大切なものになったのではないかと思います。

父が自分の医師としての経緯を語ると共に、先生が九大では学生運動の一番影響があった学年でいらしたこと、済生会八幡病院では、あの火災を経験されたこと、年金病院では、父の従弟とご一緒であられたことを伺いました。

透析とリハビリ医療の全ては、患者さんの為にと創り上げられたものだと感じ、その先見性、ご努力、ご苦勞に思いを致し、敬服しております。

先生の創って来られた病院の恩恵を、充分すぎる程に受けたのは父ではないかとも思っています。

父は、医師として平凡な一医師であったかと思えます。開業医でしたので、仕事の様子は解ったつもりで居りましたが、長く付き添う間に、私の知らなかった父の仕事の一面を想像することが度々ありました。

常に緊張感を持って、医院のこと患者さんのことを考えて来たのだろうなあと改めて思わされました。

ある頃、父が今残っている能力全てを使って、自分の状況を教えていることに気づかされ、驚いたことがありました。聴診器1本でという時代を生きてきた父が、その経験そのままに、五感を頼りに自分の状況を自分なりに理解しようとしていた様でした。

又、夢に沢山の蛇が出て来て、怖い怖いと言っていた時期がありました。少し困った私は、「お父さん、蛇は医学の神様よねえ。医学の神様が沢山出て来たんだからいいじゃない？蛇の夢を見るとお金にも縁があるというから、今度蛇が出てきたら、どうぞ陽子の所にも出て下さいと頼んでね」と話したのです。それからは一度も夢に蛇が出て来るとも、怖い夢を見ることもなくなった様でした。残念ながら、私の所にも蛇は未だに現れてくれませんが・・・。

今一緒に暮らせる様になった父を見ていると、最後に医学の神様のご褒美を下さったように思えてなりません。

お隣の葛城さんから、先生が透析室に来られて、中島さんは6月末に退院出来ますよと言われ、色々お話されたのよと伺いました。退院の日には、お赤飯と帰ってすぐに食べられる様にと、お昼のお弁当も作って会いに来て下さいました。40年も前に亡くなった母との繋がり、私達のことをいつも心にかけて下さって来たお隣のおばちゃん、温かい心遣いに、皆で心を温かくしながら家でのご飯を頂きました。

在宅医療をお願いした、きずなクリニックの嘉村亜緒衣先生は、父の親戚の嘉村格さんのお孫さんとの事で、本当にびっくり致しました。格さんは戦死なされたので、亜緒衣先生は話の中のおじい様との事でしたが、北山の寺の下で嘉村かあと、佐賀弁で盛り上がっていました。

入院中から様々な方とご縁を感じて、人の人生はこんなにも人との繋がりの中にあるものかと改めて思い知らされ、つくづくご縁の大切さを思うこの頃です。

在宅介護は、五里霧中の状態です。介護に係る皆さんに助けて頂きながら、日々を大切に過ごして参りたいと思っております。

何かの時には、また先生方にお世話をおかけすることになろうかと思えます。その節には、どうぞよろしくお願い致します。

間もなく本格的に暑い夏を迎えます。どうぞお身体ご自愛下さいませ。

手書きのお手紙に出来なかったこと、お許し下さいませ。

7月26日

現在、お父様は座られてご自身でお食事できるまでにお元気になっておられると伺いました。

平成27年8月11日

はまゆう会会長 市丸喜一郎